

# 十二月



平成27年

【定例公演】12月2日(水)午後1時開演

能 狂言 **とちほくれ** 佐藤 友彦 (和泉流)

能 絃 **上** 塩津 哲生 (喜多流)

【普及公演】12月12日(土)午後1時開演

白狐の正体―障碍と護法― 大谷 節子 (成城大学 教授)

能 狂言 **鶏** 智 茂山 良暢 (天蔵流)

能 殺生 **石** 片山九郎右衛門 (親世流)

◎演出の様々な形  
【定例公演】12月18日(金)午後6時30分開演

能 狂言 **鎌** 腹 茂山 正邦 (天蔵流)

能 仕舞 **雲** 院 高橋 汎 (金春流)

能 狂言 **朝** 比 野村 万蔵 (和泉流)

能 木 **賊** 梅若 玄祥 (親世流)



予約開始 = 11月9日(月)午前10時~

窓口販売開始 = 11月10日(火)〈チケット売場 午前10時~午後6時〉※窓口販売用に別枠でのお取り置きはございません。

【電話】国立劇場チケットセンター 〈午前10時~午後6時〉0570-07-9900 / 03-3230-3000 [一部IP電話等]

【インターネット】<http://ticket.ntj.jac.go.jp/> (パソコン)

<http://ticket.ntj.jac.go.jp/m> (スマートフォン) ※詳細は左記ホームページをご覧ください。

●プレイガイド=チケットぴあ 0570-02-9999 [PC・携帯] <http://pia.jp/> [イープラス] <http://eplus.jp/> [ケータイ] <http://eplus.jp/ntj>

入場料金

定例・普及公演 正面¥4,900・脇正面¥3,200・中正面¥2,700 / 学生: 脇正面¥2,200・中正面¥1,900

特別公演 正面¥6,700・脇正面¥5,600・中正面¥4,400 / 学生: 脇正面¥3,900・中正面¥3,100

※全公演字幕付です(日本語・英語)。※障害者の方は2割引です。詳細はチケットセンターまでお問い合わせください。※出演者などの変更の場合はご了承ください。

定例公演

12月2日(水)午後1時開演

とちはくれ

シテ/住持 佐藤友彦
アド/檀那 井上松次郎
アド/檀那 佐藤融

絃上

後シテ/村上天皇 塩津哲生
ツレ/姥 内田成信
ツレ/師長 狩野了也

ワキ/從者 工藤和哉
ワキツレ/從者 梅村昌功
アイ/龍主の眷属 野口隆行
笛 一 噌 隆之
小鼓 鶺鴒 澤洋太郎
大鼓 白坂保行
太鼓 観世元伯
後見 内田安信
塩津 圭介 友枝 雄人
佐々木多門 大村 定
金子敬一郎 香川 靖嗣
大島 輝久 長島 茂

普及公演

12月12日(土)午後1時開演

白狐の正体―障碍と護法―

大谷 節子 (成城大学教授)

鶏 聲

シテ/智 茂山良暢
アド/男 大藏彌太郎
アド/太師冠者 大藏基誠

大藏吉次郎 宮本昇
大藏千太郎 大藏教義
吉田信海

殺生石

前シテ/里の女 片山九郎右衛門
後シテ/野干 館田善博
ワキ/玄翁上人 河原康生

アイ/能力 寺井宏昭
笛 幸井正昭
大鼓 亀井正昭
太鼓 梶谷英樹
後見 味方 嘉宏
梅田 嘉宏
川口 晃平 永島 充
谷本 健吾 観世 喜正
坂 真太郎 山崎 正道
角当 直隆 馬野 正基

定例公演

12月18日(金)午後6時30分開演

演出の様々な形

鎌 腹

シテ/太郎 茂山正邦
アド/妻 茂山あきら
アド/仲裁人 網谷正美

松 風

シテ/松風 武田孝史
ツレ/村雨 渡邊茂人
ワキ/旅僧 村山童弘

アイ/須磨の浦人 茂山弘
小鼓 住駒幸英
大鼓 河村真之介
後見 宝生和英
内藤 飛能 金井雄資
東川 尚史 三川 淳雄
高橋 憲正 小倉 敏克
小倉伸二郎 東川 光夫

特別公演

12月23日(水)祝(午後1時開演)

雲林院

仕舞(金春流) 高橋 綱雄

朝比奈

シテ/朝比奈 野成野

木 賊

シテ/老翁 梅若玄祥

子方/松若 梅若玄祥
ツレ/里人 梅若玄祥
ツレ/里人 梅若玄祥
ワキ/旅僧 梅若玄祥
ワキツレ/從者 梅若玄祥
ワキツレ/從者 梅若玄祥
後見 梅若玄祥
谷本 健吾 鈴木 啓吾
坂 真太郎 観世 喜正
馬野 正基 片山九郎右衛門
永島 充 山崎 正道

とちはくれ 齋(食事)をくれるという家と、布施をくれるという家の両家からお勤めを頼まれた僧は、迷っているうちに...

鶏 聲 男が教えられた智入りの作法は、最近流行する鬮の真似。教え手はからかうつもりでしたが、聲はそれを本気で信じ...

殺生石 近づく者を殺してしまおうという那須野の殺生石。その正体はインド・中国・日本と三国に悪事をなした伝説の野干(妖狐)の精でした。迫力ある野干退治の場面が展開します。

演出の様々な形 能・狂言は長い歴史を経る中で、同一の曲でも様々な演出上の工夫が施され、流派や、同じ流派の中でも家によって、異なる構成で展開する狂言「鎌腹」と、名曲「松風」を違った小書で十月から三回にわたり特集上演する企画の最終公演。

鎌腹 妻と大喧嘩した太郎冠者は、妻に打ち殺されるよりはと、自ら鎌で腹を切った妻に向かつて、それを聞き、止めに駆けつけた妻に死んでくれと言います。

形見の烏帽子 狩衣を手に松風、在原行平と恋に落ちた海女の姉妹、松風と村雨の舞が、月照らす秋寂びる須磨の浦で恋慕の舞を舞います。情感あふれる名曲です。小書「灘返・見留」により、謡にも舞にも変化が加わり、作品に彩りが添えられます。

仕舞・雲林院 能の一部分を紋付・袴で演じる仕舞です。在原業平は二条后とも木賊色の狩衣を引き被いて逃避行します。朝比奈、地獄へ墮ちる人間が減り、困った閻魔大王。自ら六道の辻へ出て亡者を受けつけますが、現れたのは剛の者と誉れ高い朝比奈三郎義秀です。

木賊 木賊生い茂る信濃・團原山で老人は生き別れた我が子の面影をしのび、舞を舞います。鄙びた山里の秋模様を老人の深い哀しみが染み渡ります。上演機会の稀な大曲で、国立能楽堂では十二年ぶりとなります。